

氏名	木 津 裕 州
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 3 5 8 号
学位授与の日付	昭和44年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	肝疾患の病態生理に関する研究 第1編 肝疾患時の肝循環動態, とくに肝内短絡血流量 の発生機序に関する検討 第2編 各種肝疾患におけるBST代謝に関する検討
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 平木 潔 教授 大藤 真

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第1編 肝循環の異常は肝の病態生理を知る上に重要であり, その際, 肝内短絡路形成の問題は極めて重要であるので, 慢性肝炎から肝硬変症に至る過程における肝内短絡血流路の出現機序について肝小葉内の間質量の増加, 門脈圧の上昇を中心に検討を加えた。

その結果, 慢性肝炎より肝硬変症へと病状の進展に従って間質量は増加し, ガラクトース除去率, 閉塞性肝静脈圧, 有効肝血流量と有意の相関関係にあることから, 間質量の増加が肝内短絡発生と密接な因果関係にあることが推定された。

(岡山医学会雑誌第8巻第11～12号に掲載予定)

第2編 血中BSPをクロマトグラフィーを用いて, 遊離型および抱合型に分画し, 各種肝疾患時にみられるBSP停滞の原因としては,

- 1) 慢性肝炎, 肝硬変症では肝細胞のBSP摂取能または抱合能の障害による。
- 2) 閉塞性黄疸では, 抱合能に比較的正常に保たれているが, 排泄能の障害による。
- 3) Dubin-Johnson 症候群では, 一日肝細胞に摂取, 抱合されたBSPが胆毛細管を経て血中に逆流するためである。
- 4) Rotor 型過Bilirubin血症では, BSP停滞についてその障害部位を想定することは, 現在では未だ困難である。

以上の諸点を明らかにした。

(岡山医学会雑誌第8巻第11～12号に掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究は肝疾患時における肝循環の異常を肝生検標本でみとめられた肝実質、間質比と肝血流、とくに肝内短絡血流との関係、およびBSPの肝内代謝過程において研究したもので、肝疾患の病態生理を追及した点で重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。